

栄光

説教・	
「私たちは復活の証人」岸牧師…1	
特集・クリスマスの贈り物……………2	
幼児祝福式報告…4	
召天者記念礼拝報告……………5	
聖学院中高だより……………6	
伝道師の書き込み…7	
牧師の書斎から…7	
長老のファイル…8	

『私たちは復活の証人』

イザヤ書49章4節～6節

使徒言行録26章24節～32節

岸 俊彦

説教

「メシアが苦しみを受け、また、死者の中から最初に復活して、民にも異邦人にも光を語り告げる」とを述べ伝えるのがパウロの使命でした(23節)。

ローマ総督フェストウスはパウロの弁明を聞いて、「パウロ、お前は頭がおかしい。学問のしすぎで、おかしくなったのだ」(24節)と大声で言いました。どうして十字架に磔になった罪人がメシア(救い主)なのでしょう。死人が復活することはあり得ません。彼はきわめて常識的な人間でした。

権力者たちの前に立たされたパウロは囚人でした。鎖に繋がれたまま、「フェストウス閣下、わたしは頭がおかしいわけではありません。真実で理にかなったことを

話しているのです」(25節)と静かに語りました。権力者たちはパウロが語っていることを理解して

います。復活のキリストを信じたらパウロのように「頭がおかしい」と言われ、捕えられ殺されるのです。にもかかわらずパウロは自らの足で立ち、静かに確信にみちて語りました。私たちはしっかりとパウロを見て、聞くべきです。

キリストはローマ総督ヒラトによって十字架に磔にされました。彼はキリストが無実だと分かっているながら釈放することができません。ユダヤ教指導者たちの反発を恐れたからです。自らの地位を守るためでした。

囚人パウロを前にしたフェストウスもアグリッパ王もベルニケも

同じです。彼らにとってパウロは心証無罪なのです。しかし皇帝に上訴したパウロが悪いとばかり釈放しませんでした(32節)。彼を取りまく人々の様々な思惑、権力者同士の腹の探り合い、それらがパウロを鎖で縛りつけていました。一方で、この世の権力者たちは目には見えないこの世の鎖に縛りつけられていました。自分たちの地位と権力を守るためでした。

私たちは幸いなことに鎖には繋がれていません。しかし、様々な問題、重荷、自分自身が鎖となつて私たちが縛りつけて不自由に、重苦しくしていませんでしょうか。コロナ禍、この世のしがらみ、人間関係、私たち自身の思惑、プライド、弱さ、恐れ、思い煩い、老い、家族の問題、様々なものに私たちは縛られています。

「このように鎖につながれていることは別ですが」(29節)とユーモアにあふれ、「私は天から示されたことに背いていない」(19節)と語ったパウロのほうが自由です。「わたし(キリスト)の名のためにどんなに苦しまなくてはならないか」(9・15)と、復活の主イエス・

キリストがパウロに示した使命こそ、パウロを縛りつけている目には見えない鎖です。キリストを信じる信仰こそパウロの鎖です。この鎖こそ主との絆です。永遠の命の絆です。主に結ばれているために捕えられ、鎖に縛りつけられ、裁判にかけられ、ローマに護送され、そして殉教の死を遂げます。しかし、そうなるうとも、復活のキリストの証人としての自分の労苦は決してむだにはなりません。

「わたしたちは知っているのです、苦難は忍耐を、忍耐は練達を、練達は希望を生むということを。希望はわたしたちを欺くことがありません。わたしたちに与えられた聖霊によって、神の愛がわたしたちの心に注がれているからです」(ロマ5:3～5)。

キリストを信じることによる天との鎖、絆は確かです。生も死も、主なる神の御手の内にあります。「今日この話を聞いてくださるすべての方が、私のようになつてくださることを神に祈ります」(26・29)。パウロの祈りです。天にいる信仰の先達の祈りです。主の祈りです。(召天者記念礼拝説教)

サンタクロースの物語

大友麻子

年齢を重ね、新たにできるようになることより、できなくなることの方が増えていく感覚がリアルになり、人生の大先輩たちからすればヒヨッコが何を言うかと思われそうですが、半世紀を生きてきた今、順番に老いて次の世代が自分たちのありようを乗り越えて進んでいくのを応援するという、社会はそんな営みを繰り返してきたんだなあと思うこの頃です。

そんな繰り返しの中の1つが、サンタクロースでしょう。と、いきなり高齢化社会のリアルからメルヘンの世界にいきますが、今は50歳になったわたしにも、お空の向こうからやってくるサンタクロースの姿を思い浮かべてワクワクしていた子ども時代がありました。あるいは、タイトルは忘れましたが、抜けた歯を枕の下に入れておくと、ペレスという名のネズミがやってきて、歯と交換に贈り物を置いて

いくという絵本を読めば、抜けた歯を枕の下に仕込んでドキドキしながら眠りについたものでした。

そして朝、雨戸の閉まった薄暗い部屋の中、布団の中で体を動かすと足元でカサカサと紙の包みの音がする。今風に表現するなら、「キターー!」というところでしようが、あの瞬間の歓喜あふれる感覚は、当時のわたしには言葉にしがたいものでした。思えば、低血圧で夜中に起きたら寝付けなという母が、頑張って仕込んでくれたものに違いありません。

商品そのものとしての嬉しさではなく、そうした物語から生まれる喜びだったのでしょう。それから数十年、親になったわたしは、真夜中に布団から這い出し、隠していたプレゼントを娘の足元に仕込むのです。娘はサンタへの手紙やらクッキーやらを用意しているので、サンタが食べていった感を演出する必要もありました。昨年、ついにサンタの正体を知り、衝撃で泣いていた娘ではありませんが、いつか大人になった時、同じようなことをしながらニヤニヤと昔を思い出すのでしょうか。

祈り

毛利亮子

10月の第4土曜日の夕刻、「今から行つていい?」という電話の後、息子の家族がやってきました。家族3人と猫2匹。大きなゲージ、小ゲージ、トイレ、食器に食料：民族大移動の態です。

夕食が済んで、息子が言い出しました。「11月1日に手術をすることになった」と。「舌癌の手術だけれど心配しないで。どこにも転移していないし、タバコを吸っているのにきれいな肺だといわれた。煙草を止めたら、今、食欲旺盛で」。ひと月ほど前、歯科医に行ったら、大学病院へ紹介されて癌と診断された、と。

昨年だったか、タレントさんの舌癌の話があったなあ…と思いつつ動揺はありませんでした。でも、翌日夜、彼らが大移動で帰宅していったあと、悲しくないのに涙が流れるのです。

月曜日、岸先生にメールしまし

た。いつもはお説教原稿とライブ配信への感謝ですが、息子の癌手術の成功をお祈りに加えてくださいとお願いました。そして、私は平安を取り戻すことができたのです。不思議でした。受洗後もずっと、私は本当に主を信じているといえるのだろうか?と迷う心がどこかにありました。心の底から祈っているのか?という不安がありました。でも、今回祈りが心を平静にすることを実感しました。

舌の腫瘍を切除し、大腿部の肉で埋めるという手術は10時間ほどかかったようで、集中治療室に入ったという連絡をもらったのは夜7時を過ぎていました。

手術後の回復は、お医者様や看護師さんが通常の患者さんの2倍は速いと驚かれるほどとか。管が外れ、ペースト状の食事も取れるようになって、予定より半月も早く11月18日に退院できました。まだまだ通院治療やリハビリは続くのですが、神様が守ってくださったと実感できる体験で、私には少し早いけれど嬉しいクリスマスプレゼントでした。

クリスマス、 おめでと〜♡ございます！

原 真友子

幼い頃、毎年クリスマスにはサンタさんに手紙を書いていました。あるクリスマスの朝、ついにサンタさんから返事が。英文を親に訳してもらい、サンタさんが苦労してプレゼントを探してくれたこと、意外にも趣味はサーフィンだということなどを知ったのです。プレゼントも嬉しかったのですが、何よりサンタさんから直接返事が来たことが嬉しかったのを覚えています。

大人になって、サンタさんに手紙を書くことはなくなりました。一方で、家族や友人にクリスマスカードを書くようになりました。教会で牧師先生や兄弟姉妹からカードを貰うのが堪らなく嬉しく、私も書くようになったのです。可愛いカードを用意して、クリスマスの喜びを伝え、相手の幸せを祈る言葉をつづります。イエス様の誕生をお祝いする日ですから、

希望がもたらされた喜びを遠慮なく享受して良い。この時はやはり、日頃抱えているであろう苦しみや悲しみなど、手紙の相手を慮ることよりも、与えられている揺るぎない希望の、嬉しい限りを言葉にすることを優先させて頂きます。

さて、今年は特別に心を込めてカードを贈りたい相手があります。昨年亡くなった一番の親友です。筆まめの彼女からの手紙には、何度励まされたか分かりません。コロナ禍で会えないまま、彼女の魂は肉体を離れてしまいました。もう彼女から手紙が来ることはないけれど、せめて私から彼女へ手紙を書いて、共にクリスマスの喜びに与りたいと思います。

暗闇の中に一つの星が輝いて博士が導かれたように、決して環境の良くない馬小屋で救い主がお生まれになったように、どのような時にも与えられている力強い希望。その希望に、今もひたすら信頼して、喜びの言葉を贈りたいです。きっと、大切な人はもちろん、いつもは相容れない人や死者でさえも、この喜びが伝わるのではないかと思っています。

幼児祝福式報告

11月14日、例年のように教会学校の子どもたちと大人が合同礼拝を守りました。5月の子どもの日とあわせて年2回の合同礼拝です。子どもの人数が多すぎて礼拝堂に入りきれないため、中学生、高校生との合同礼拝の時代もありました。礼拝後の幼児祝福式も、主日礼拝後にあわせて家族が集まった時代もありました。

今年は昨年が続いてコロナ禍の合同礼拝、幼児祝福式でした。このことを将来思い出すことができると、マスクをつけて集合写真を撮りました。

祝福されたのは、飯島光君、久保聡真君、古賀絵理彩さんでした。1年の月日の流れと、神さまの恵みの大きさを感じます。3人とも大きくくなりました。

体だけではありません。一人一人が講壇にしっかりと立ち、会衆の皆さんをしつかりと見て、牧師から祝福

を受けました。会衆のアーメンにあわせることができました。お母さんに抱かれて、それでもイヤイヤだった子が、私の手の下でしっかりと主からの祝福と、皆さんの祈りを受け止める神さまの子となっていました。

祝福を受けた3人とも下の子です。ご両親も子育てに余裕が感じられます。お母さん、お父さんとして成長しています。教会学校のお兄さん、お姉さん、先生たちもしっかりとしてきました。成長させてくださるのは神さまです。

こちらは3人の名前も覚えられません。弟を兄の名で、妹を姉の名で、と勘違いばかり。年ごとに老いを実感します。しかし、老いも神さまの恵みに違いありません。

(岸 俊彦)



召天者記念礼拝報告

召天者記念礼拝に出席して

高橋佳代子

昨年12月3日に夫（高橋 敬）を肺がんで亡くし、今回はじめて召天者記念礼拝に出席させていただきました。

岸先生のお話にもありましたように、夫は受洗していませんでした。夫の両親が経堂北教会の教会員であったため、昨年コロナ禍の中、夫の希望通りこの教会で葬儀を執り行っていただけたことは本当に有り難く、心から感謝申し上げます。

夫の闘病中、私たちは気持ちがひとつになっていきました。これ以上治療はしたくないと言う夫。まだ抗がん剤も1回しか試しておらず、子どもも成人してないのだから、もっと治療に前向きになってとプレッシャーをかけ続けた私。ただでさえ辛いのに、心もかなりしんどかったのではないかと、今になって申し訳なく思っています。

最期は、本人の希望でホスピスに入院しました。入院のための診

察予約が3ヶ月先までいっぱいと言われていましたが、偶然キャンセルが出たため、すぐに入ることが出来ました。受洗もしていなかった夫が、キリスト教のホスピスで最期を迎えることができたのは、イエス様のお導きがあったからだと思っています。

夫が亡くなった時は、現実として受け入れられないような気持ちでした。そしてその後の1年は仕事をしながら、子どもに先立たれ

失意のどん底にある義母を支えること、まだ大学院生と大学生の子どもたちのことなど、やることが山ほどあつて、悲しんでいる時間もありませんでした。

召天者記念礼拝は、そんな私にとってあらためて夫と向き合う貴重な時間となりました。あの時どうして夫の辛さに寄り添えなかったのか、もっとうすればよかったなど、色んな思いが押し寄せてきて、葬儀の日以来、初めて夫を思って涙が出ました。讃美歌405番は特に心に沁みました。今後は私に与えられた使命を全うするため、また頑張っていこうと思います。

あらためて思うこと

吉田保信

毎年お誘いいただいておりますが、今年は息子一家ともども4名で参加させていただきました。岸先生はじめ教会の皆様には御礼申し上げます。

写真を掲げていただいている縁者は5名、最後に亡くなった義母でも15回目ということになりました。気が付かないうちに時は流れていきます。

妻、美枝が亡くなってからも17年が過ぎ、私も70歳となりました。旅行などは殆ど一人で行きますが、たまには「ここは一緒だったら楽しかったらうな」と思うこともあります。当初は突然悲しみに襲われたり、「そもそも何故先に」と腹立たしく思ったりしていましたが、最近はそのそばにいるようでもあり、遠くに隠れているようでもあり、という心境に落ち着いてきたようです。

一方、家に息子夫婦が同居することになり、孫も生まれ、独居老人生活から一転、賑やかにになりました。美枝ならば、さぞや喜んで、また張り切って孫の世話をしただらうと思います。

らうと思います。

家の中では、時折、生活の何かしらを契機に、20年以上前のことが話題になります。いろいろなことがあつたはずなのですが、思い起こされるのは穏やかで温かい、他愛もないエピソードがほとんどです。また、今起きていることについて「彼女だったらこう考えるかなあ」と思うこともあります。

自分では折に触れ思っているつもりですが、1年に1度、召天者記念礼拝という非日常的な場に参加し、故人を思い、時を感じることは、私にとって意義深いことです。この機会をくださった経堂北教会の皆様には重ねて感謝申し上げます。



聖学院中高だより

経堂北教会から送り出されてから早いもので8年が過ぎ、経堂で生まれた娘は10歳になりました。伝道師時代をお支えいただき、ありがとうございます。札幌の麻生教会牧師・麻生明星幼稚園園長を5年間務めた後、主の不思議な導きにより聖学院大学で2年間主事として働き、この度は母校の聖学院中学校高等学校のチャプレンとして皆様に報告ができることを嬉しく思っています。

本校では毎朝12分（本来は15分）の全校礼拝を捧げています。現在はコロナ禍にあつて一つの場所に集まることはできないため、校内放送やGoogle Meetを使用し、月曜から土曜まで教室で礼拝を守っています。生徒たちに礼拝について尋ねると「毎朝の気持ちの切り替えに役立っている」との答えが返ってきます。毎朝の礼拝が生徒たちの精神的な基盤になっているようです。

また、中高6年間を通して毎週1コマの聖書の授業があります。特に今回紹介したいのは、今

年度より新設されたグローバルイノベーションクラス（Global Innovation Class）のことです。このクラスは高校1年生29名によって「ものづくり・ことづくりを通して世界に貢献する」ことに特化した学級となっています。この新クラスの「プロジェクト」というゼミを担当することになりました。生徒たちが自分自身で課題を設定し、その解決に向けて学内外で連携し、研究活動を行う授業となります。担当教員の募集があつた際に、聖学院教育の最先端の場に聖書に基づく授業がある

と良いと考えて、英語科のクリスチャン教員と共に「宗教／文化ゼミ」として立候補しました。久保ゼミの目的は「キリスト教の正典（CANON／基準）である聖書の思考法を探求することで、建学の精神である『神を仰ぎ人に仕う』、『Only One for Others』を体現する『聖人』を育成すること」です。初代校長の石川角次郎が「本校の理想は聖人を養成することである」と語ったヴィジョンを受け継ぎたいと願っています。

それでは、聖学院教育が目的と

する「聖人」とはどのような存在なのでしょう。おそらく、通常であればクリスチャンや牧師を思い浮かべる方が多いと思います。けれども、私たちはより広い意味で「聖書の思考法によって生きる個人」を「聖人」として捉えています。また「聖人」についても一つ定義するとすれば、本校のスクールモットーである「Only One for Others（賜物を用いて他者に仕える個人）」を体現する者と捉えています。具体的には、かつて株式会社資生堂の社長であつた故・池田守男先生を思い浮かべています。池田先生は東京神学大学を卒業後に資生堂に入社し、社長や管理職こそ「奉仕と献身」という聖書の思考法で社員を支えるべきだとの思いを貫き、同社の経営状況を改善することで企業を復活させた方です。

久保ゼミは3名の少人数のゼミですが、こうしたキリスト教精神や宗教的な理念によって運営されている企業や団体の活動を研究し、「聖人」の発想によって社会で活躍する方々との出会いを生徒たちに提供することで、その理論

と実践について学びます。また、それはゼミだけではありません。毎週の聖書の授業でも、全校生徒が「神を仰ぎ」、「For Others」に徹することで、それぞれの「Only One」を見いだし、「聖人」として世界に羽ばたいてもらいたいと願っています。

コロナ禍でのオンライン礼拝に対応した結果、PCやiPadで様々な小技を習得し、楽しく授業に応用することができるようになりました。大変な日々ですが、生徒・保護者・教職員が互いに支え合いながら元気に過ごしています。

どうぞこれからの聖学院教育にご期待ください。皆様の上に主の祝福を祈ります。（久保哲哉）

聖学院が大切にしていること

①Number One から Only Oneへ

聖学院教育は神の前にかげがえのない Only One (唯一) の人格として

そのいのちの尊厳を認め、個々に与えられている賜物を見いだし、周りの誰とも比べることのできない タレント(才能)を発揮せしめる教育なのです。

林田秀彦 名誉校長

伝道師の書き込み

9月から急激に新型コロナウイルスの新規感染者が減って、東京でさえ新規感染者が1桁になる日も出てきました。11月の礼拝では

久しぶりに出席者が100人を越える日がありました。それくらいの人数になると、礼拝堂の席がほぼ全て埋まることとなります。これはコロナ禍以降、ソーシャルディスタンスの確保のため、礼拝堂の席に空席を設けているためでもあり

ます。普段よりも20人も増えると、讚美歌を歌っているときの音の圧力というか、迫力というか、随分違うものです。コロナ禍の前は毎週これ以上の人数で礼拝をしていったというのに、その日は随分新鮮に感じました。

出席100人を越えた日のうち、私は合同礼拝の日に礼拝説教を担当していました。去年と今年は召天者写真の掲額を11月いっぱいまで延長しています。召天者記念礼拝を午前と午後の2回実施しており、当日に片付ける時間が取れない

他の基金等と合わせると1億円を超えています。有難いことです。12月5日、購入したプロジェクト等を使ってZoomによるオンラインで、ライブ配信で礼拝を守っている教会員と挨拶を交わすことができるようにと計画中です。

11月の長老会で4年前の80周年記念事業会計をようやく終了することができました。懸案!?だったプロジェクトとスクリーン等を購入したからです。全体で165万円の内、残金4万7千円は会堂建設基金積立金に積み立てました。この基金は創立70周年の時、将来の会堂建設のために始めた基金です。現在4千2百70万円弱が積み立てられています。そ

ます。普段よりも20人も増えると、讚美歌を歌っているときの音の圧力というか、迫力というか、随分違うものです。コロナ禍の前は毎週これ以上の人数で礼拝をしていったというのに、その日は随分新鮮に感じました。



牧師の書斎から

のためでもありません。そういうわけで、合同礼拝の日にも召天者写真の掲額が続いていたのですが、説教者の席からは、100どころか300の顔が見えるわけですから、同じ礼拝堂にいても、受ける印象は随分違います。壮観と言いますか、ただなんだかちよつと圧倒されるようなところがあると言いますか。

感染状況は落ち着いたまま、12月を迎えることになりました。会堂がいつぱいになり、みんなで讚美を捧げるといいうのは嬉しいものですが、同時に人でいっぱいのは

いたためでもありません。そういうわけで、合同礼拝の日にも召天者写真の掲額が続いていたのですが、説教者の席からは、100どころか300の顔が見えるわけですから、同じ礼拝堂にいても、受ける印象は随分違います。壮観と言いますか、ただなんだかちよつと圧倒されるようなところがあると言いますか。

ださる皆さんにはご迷惑をおかけしています。お許しください。それにもかかわらず、オンライン礼拝の出席者は、実際に礼拝に出席されている皆さんが手を振ることを喜んでくださいます。画面の向こう側でも手を振ってくださいているそうです。その姿を礼拝後スクリーンに映したいのです。先日そのためのテストをしました。参加者は9人でした。全体で10分ほどの近況報告でした。それでも嬉しい一時でした。ずっとスクリーンに顔が映し出されるのは

堂を見ていると、いくら感染状況が落ち着いているにしても、実はちよつと不安になります。巷でマスクをしていない人を見かけると気になってしまつのも、未だに変わりません。そういうことを気にかけることなく、礼拝できるにはまだしばらくかかるでしょう。アドベント、クリスマスの礼拝も去年と変わらない感染対策を取ることになりました。コロナ以前と同じようにはいきませんが、変わることはない静けき夜を喜び祝えればと思います。(狩野進之佑)

抵抗があるでしょう。一人オンライン礼拝に集中できる環境に無い方もいらつしやるでしょう。しかし、ライブ配信は今まで通りのYouTube。Zoomは礼拝後の一瞬です。ライブ配信は緊急対応で続けています。Zoomも同じです。「ともかくやってみよう」です。

オンラインとは言え、久しぶりに顔を合わせて手を振るだけでも嬉しい気持ちになります。この原稿を書いている今夜、もう一度テストします。当日はより多くの方の参加を期待します。(岸俊彦)

個人消息



掲示板



- 西南支区按手式 12月6日(月) 午後6:00
霊南坂教会 狩野伝道師が按手礼を受領します。
- 狩野牧師就任式 12月12日(日) 午前10:15
- 教会学校クリスマス礼拝
12月19日(日) 午前9:00
お話「東方の博士たち」マタイ2:1-12
狩野進之佑
- クリスマス礼拝
12月19日(日) 午前10:15 / 午後2:00
説教「クリスマスの驚き」岸 俊彦
イザヤ11:1-5、ルカ1:26-38
- クリスマス・イブ礼拝
12月24日(金) 午後7:00
説教「夜の底を照らす」ルカ2:1-20
狩野進之佑

編集後記



▽今年にはクリスマス礼拝からイブ礼拝の間隔が空きますが、その分クリスマスの恵みをじっくり味わいましょう。(酒井)

「栄光」2021年12月号
日本基督教団 経堂北教会
〒156-0051 東京都世田谷区宮坂3-21-11
電話：03-3428-5029 / FAX：03-3428-5038
牧師：岸 俊彦 伝道師：狩野進之佑
編集：栄光編集委員会
Email：kyodon@nifty.com
HP：http://kyodokita.life.coocan.jp

長老のファイル

コロナ禍であつても礼拝は一度も休むことなく続いていきます。11月の長老会も予定どおり開かれました。事前に配布された資料の確認、10月の集会、牧師、会計、各委員会の報告を受け、これから行われる行事、集会について協議しました。長老会の記録、教会の予定は月末に月報として皆様に配布されています。

11月7日の召天者記念礼拝は、

密を避けるためにご遺族への案内状には午前か午後かの指定がありました。2回に分けられた礼拝と当日の会場案内のお陰で全員が間隔を空けて着席できました。召天者の方々の写真に囲まれてご遺族と一緒に礼拝は、過去から現在まで守られ導かれていた神様の恵みを覚えられました。礼拝後は対外献金を捧げるためのミニバザーがあり、出席された方々も買い物を楽しみ、献金に協力くださいました。「望みの門」の参加もあり、賑やかなミニバザーとなりました。後

日、他教会の友人から「100人の礼拝を2回とバザーができたなんて夢のようね」と言われました。11月14日は子どもたちとそのご家族との合同礼拝でした。礼拝後、3名の幼い子どもたちの祝福式をしました。幼児から高齢者まで共に集い、一つの家族のようでした。11月21日は創立84周年記念礼拝でした。記念撮影は行わず、84年間の主の導きに感謝の礼拝を捧げました。

例年9月から行事が次々と毎週のように続き、クリスマスを迎えるホッと一息つくとも、もう年度末です。昨年より続いているコロナ禍の日々を思い出すと、バザーはミニバザーとなりましたが行事は変わらず行うことが出来て、神様が守り導いてくださっていることを覚え感謝です。礼拝に出席される方々は不織布のマスクの着用、手指の消毒、検温、換気の窓の開閉など本当によく協力してくださいありがとうございます。オンライン礼拝を視聴できることも恵みです。み言葉に聞き従う生活を続けたいと思います。(鈴木こづえ)